

うつ病で悩んでいる患者さんへ

～ 疾患と治療薬、治験について～



うつ病とは

誰でも嫌なことや悲しいことがあると、
落ち込んだりやる気を失ったりすることがあります。

多くは一時的なもので、いつのまにか良くなりますが、
憂うつな気分や、何に対しても興味や喜びを感じない
状態が長く続き、日常生活に支障をきたす場合を
「うつ病」といいます。

趣味や好きなことが
楽しめない

良いことが起きても
気分が晴れない

疲れがとれない
眠れない



うつ病の症状

うつ病の症状は、こころとからだの両方にあらわれます。

こころの症状



- 気分が落ち込む、悲しみや虚しさを感じる
- 自分を責めてしまう、自分には価値がないと感じる
- 物事に対する意欲・関心がなくなった
- 焦ってイライラしてしまう、落ち着かない
- 集中力や決断力が低下した



からだの症状

- 眠れない、何度も目が覚める、寝すぎる
- 食欲がない（または、食べすぎてしまう）
- からだが重い、肩や腰の痛み
- 頭痛、動悸、胃の痛みなどがある



人によって症状はさまざまですが、強い憂うつ感や意欲の低下、原因不明のからだの症状が2週間以上続いている場合、「うつ病」の可能性ががあります。ひとりで悩まず、身近なひとや専門医に相談しましょう。

うつ病の原因と治療法

はっきりした原因はまだよくわかっていませんが、さまざまな要因が重なって発症すると考えられています。

環境要因

大切な人との死別
人間関係や家庭内のトラブル
昇格や転勤
結婚、離婚、妊娠 など

性格的要因

義務感が強く、仕事熱心
他人の評価が気になる
気持ちの切り替えが苦手
完璧主義、凝り性 など

その他の要因

体質（月経や更年期）
病気（甲状腺機能の異常や脳血管障害）や薬剤
遺伝 など

休養・環境調整

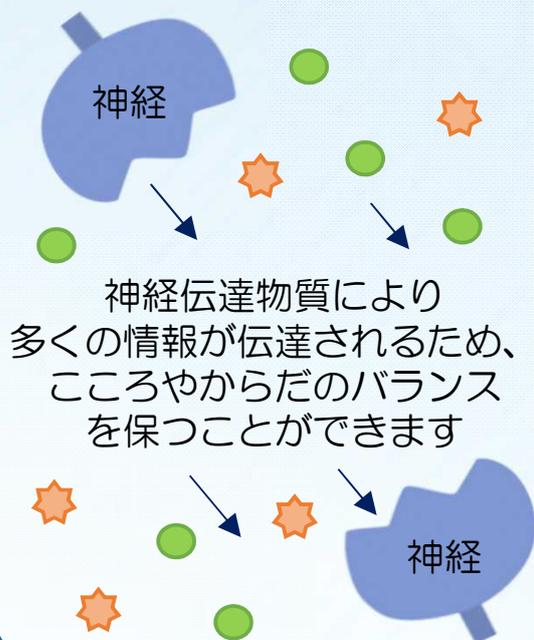
まず、心身の休養がしっかりとれるように環境を整えることが大切です。

精神療法

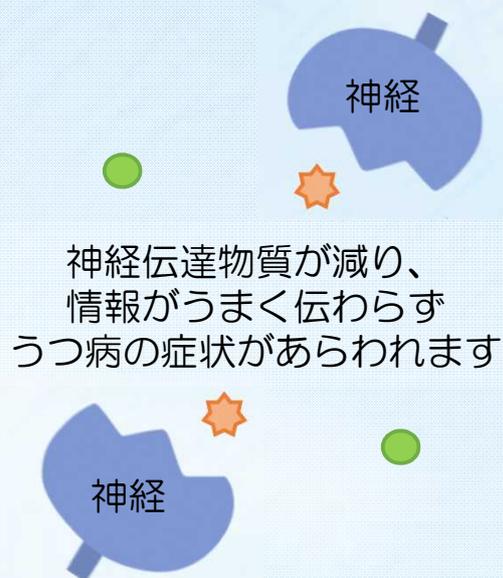
原因となったストレスを振り返って対処法を学び、調子のよい状態の維持と再発を防ぐ目的で行われます。

また、最近の研究では、
脳で働く 神経伝達物質 の働きが悪くなることも
うつ病の発症に関連していると考えられています。

健康なとき



うつ病のとき



※神経伝達物質とは…

脳の中では神経の細胞から細胞へさまざまな情報が伝達されます。
その伝達を担うのが「神経伝達物質」です。

神経伝達物質の中でも、『セロトニン』や『ノルアドレナリン』は、
睡眠・意欲・感情などに関する情報の伝わり方を
コントロールしていると言われています。

うつ病になると、これらの神経伝達物質が少なくなり、
働きが低下するため、さまざまな症状があらわれると考えられています。

薬物療法

神経伝達物質の働きを改善させる
抗うつ薬などを使って治療を行います。



抗うつ薬の種類

最近使われるようになった抗うつ薬



<選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) >

セロトニンの働きを整える抗うつ薬です。

主に認められる副作用には、悪心、嘔吐、口渇、めまいなどがあります。

<セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬 (SNRI) >

セロトニンとノルアドレナリンの働きを整える抗うつ薬です。

主に認められる副作用には、悪心、頭痛、下痢、口渇などがあります。

<ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬 (NaSSA) >

セロトニンとノルアドレナリンの働きを高める抗うつ薬です。

主に認められる副作用には、傾眠、口渇、倦怠感、便秘などがあります。

いずれのおくすりも三環系抗うつ薬や四環系抗うつ薬に認められるような副作用の頻度が少ないといわれています。

当院では開発中の新しいお薬の治験も実施しています。
興味がある方は次のページをご覧ください。

古くから使われている抗うつ薬

<三環系抗うつ薬>

主に認められる副作用には、口渇、便秘、眠気などがあります。

<四環系抗うつ薬>

三環系抗うつ薬と似た副作用が認められることがありますが、三環系抗うつ薬と比較し、副作用の頻度が少ないといわれています。



当院で実施中の治験について

当院では発売前のお薬の治験に参加していただける方を募集しております。

治験（ちけん）とは

薬の効果や副作用を調査し、研究することを「臨床試験」といいます。

その中でも、国(厚生労働省)から「くすり」として認めてもらうために行われる試験のことを「治験」といいます。

この治験にご参加いただける方

- ✓うつ病と診断された方
- ✓外来での通院ができる方
- ✓20歳以上の方

※ その他の条件により参加いただけない場合があります。

参加期間

約12週間（治験薬服用期間 10週間）

- 治験の参加は自由意思です。治験に参加した場合でも、「治験をやめたい」と思われた時いつでも参加を取りやめることができます。その際は患者さまに適している方法で治療を行います。
- ご参加いただいた方のプライバシーは守られます。
- 興味がある方は問い合わせ先にまでご連絡ください。





うつ病は症状が回復してきても、一定期間病院に通って
治療を受けることが大切です。

お医者さんが「もう大丈夫」というまであせらずに
治療を続けていきましょう。



問い合わせ先

さくら・ら心療内科

028-615-7520